

平成 26 年度事業 足立区ギャラクシティ運営評価委員会評価書

施設名：ギャラクシティ（足立区子ども未来創造館・足立区西新井文化ホール）

指定管理者：あだち未来創造ネットワーク

1～5 調整得点合計	得点比率	総合評価
800/1000 点	80.0%	A <sup>-</sup>

得点比率	評価	評価内容
90% 以上	A <sup>+</sup>	A 当該分野について、良好である。
80% ~ 89%	A <sup>-</sup>	
70% ~ 79%	B <sup>+</sup>	B 当該分野について、適正である。
60% ~ 69%	B <sup>-</sup>	
50% ~ 59%	C <sup>+</sup>	C 当該分野について、課題がある。
40% ~ 49%	C <sup>-</sup>	
39% 以下	D	D 当該分野について、至急改善が必要である。

評価分野	評価項目	得点	評価分野合計	得点比率	評価	得点調整指数	調整得点	委員会からの意見
1 管理運営体制	利用者が快適に、安心して過ごせる環境づくりの推進	5/6	13 点 (15 満点)	87%	A <sup>-</sup>	1	87 点	昨年度指摘した接遇・館内整理に関しては、マニュアル作成や定期的な訓練、研修等により、利用者アンケート結果や第三者による接遇診断の結果等からも改善が見られ評価できる。ただし一部で障がい者への対応にもう一步踏み込んだ配慮があったらと思われる事例があったため、今後一層、状況に応じた柔軟な対応、心を込めたサービスの提供に努めてほしい。また、安全面での環境整備をはじめとする取り組みに関しても、引き続き事故を未然に防ぐ取り組みに注力してほしい。
	利用者のサービスアップにつながる機能的な組織運営	8/9						
2 子ども体験事業	遊び・創作・科学体験事業他	6/9	12 点 (18 満点)	67%	B <sup>-</sup>	3	201 点	体験事業の数的な面では区の要求水準を超えており評価できる。昨年度指摘したボランティアを含む外部との連携不足については、企業・大学・区の他施設との連携等は進展が見られたが、ボランティアが完全に機能しているようには見えない。また、事業の「量」と共に「質」を求めたことについて、事業同士の関連性や、子どもの成長に応じた自主性を育む視点を加えて、ギャラクシティとしての体系的な理念を明確にし、事業に反映させる努力を引き続き行ってほしい。
	開発事業・ふれあい交流事業	6/9						
3 まるちたいけんドーム活用事業	まるちたいけんドーム活用事業	8/9	8 点 (9 満点)	89%	A <sup>-</sup>	3	267 点	昨年度指摘したギャラクシティでしかできない事業の追求に関して、プラネタリウム投影にとどまらず、音楽や講演等と組み合わせた投影を積極的に実施したことは、来場者数が大きく伸びた点からも評価に値する。引き続きこの方向性を維持しつつ、連携機関のリソースを活用して「まるちたいけんドーム」の独自性を確立してほしい。また既存のハード・ソフトの十二分な活用を図り、区内大学の映像学科との連携等による館独自の本格的な映像コンテンツ制作を目指してほしい。
4 文化事業	豊かな文化芸術に触れる機会の提供	11/12	17 点 (21 満点)	81%	A <sup>-</sup>	2	162 点	公演本数は要求水準を満たしており、お客様アンケートも及第点にあり、その点について評価する。しかし、3年目を迎えて、西新井文化ホールとしての理念や特色を明確に出せていない。音楽普及を目指し、団体育成や区出身アーティストへの場の提供など、公共のホールとしての使命を見据え、強化してほしい。また、昨年度指摘した集客力を高めるための新たな方策や、ホールの理念に基づく事業展開、広報活動の見直し、「区民交流機会の創設」については、依然として課題の残るところであり、今後も引き続き努力されたい。
	区民との協働による文化活動の振興	6/9						
5 広報事業	利用者のニーズにあわせた取り組みと提案書の遂行	5/6	5 点 (6 満点)	83%	A <sup>-</sup>	1	83 点	積極的・能動的な広報活動で、昨年度と比べメディアへの露出回数が増加したことによるPR効果は高く評価できる。次のステップでは、来館者情報や館内動向の分析、区民が誇れる施設と感じられる広報、旧来の認知拡大型の広報に加え長期的な関係性を作り出す広報を期待する。また企業との連携によるPR効果に関しても、社会貢献活動を行う企業等の中から連携先を選択するなど、戦略的な連携・広報活動を今後は目指してほしい。